

海外向け貸出が日本の貸出市場に与える影響

一橋大学大学院生 松本涼

要旨

近年、大手3行を中心とする都市銀行は海外向け貸出を中心に貸出量を増加させている一方で、そのほかの銀行は国内向け貸出を中心に増加させている。

本研究は、一般均衡モデルを構築し、日本の都市銀行の海外向け貸出の上昇が、国内の貸出市場に与える影響を分析する。本モデルの特徴は都市圏 (Urban) , 地方圏 (Rural) が存在し、それぞれの地域と海外に貸出ができる銀行と、海外に貸出ができない銀行の2種類が存在する、という点にある。構築したモデルを用いて、海外向け貸出や国内貸出需要の低下がどのような影響を与えるか考察した。結果として、海外貸出の上昇は日本の貸出市場のシェアや都市銀行内の貸出シェアを説明するのに十分な影響力を持つことがわかった。さらに、地域間の貸出シェアの分析では、海外向け貸出の上昇が、既存研究で指摘される都市圏の貸出シェアの均等化と地方圏の貸出シェアの集中化を説明できることがわかった。以上の結果は、日本の貸出市場を考える上で、都市銀行の海外向け貸出は重要な要素であることを示唆している。

キーワード：海外向け貸出，貸出市場

JEL Classification : E44, G21